

NICE TOWN

あなたと香川県の企業をつなぐ就活専門誌

輝く企業!!

2017

この会社で働きたい。
香川をリードする情熱企業

46社



特別価格 840円



〒761-2306
香川県綾歌郡綾川町北1250-6
代表TEL/087-876-4775
FAX/087-876-4781

- 設立 2008年
- 代表取締役社長 伊藤 靖雄
- 資本金 200万円
- 社員数 20名
- 基本給 17万～(別途手当あり)
- 休日休暇 週休2日
- 福利厚生 各種社会保険完備、企業年金制度有

- ▶インターンシップの受入れ/相談可能
 - ▶大学生アルバイトの受入れ/相談可能
 - ▶採用担当者連絡先/
- 住所/〒761-2306 香川県綾歌郡綾川町北1250-6
採用担当者連絡先/TEL/087-876-4775
FAX/087-876-4781
mail/ info@ayagawa-sousai.co.jp
採用担当/伊藤

http://www.ayagawa-sousai.co.jp

株式会社 綾川葬祭

葬儀・法要・仕出し料理



国分寺会館



Executive/伊藤 雄介

株式会社 綾川葬祭
常務取締役
昭和58年生まれ
平成19年 日本体育大学卒業
香川県警察勤務
交番勤務～警護～外国人犯罪取締
平成24年から現職。

前職が警察官という全くの異業種からこの世界に飛び込んだという伊藤雄介さん。公務員からの転職で当時はギャップに悩んだこともあったそう。それでも地元の商工会議所などで経営者同士の交流を深め、これまで学んできたことを活かして、後継者としての知識やネットワークを構築してきたのだといいます。また父である社長の言葉「常に謙虚な人間であれ」は常に大切に心に刻んでいられるそう。「葬儀会場というのは地域の皆さんに利用していただくもの。常に地域の皆様にありがたいうちがなければなりません。スタッフ一同常に謙虚な気持ちを持って仕事に向き合っています」。



綾歌・飯山会館

平 成20年、1日1組限定で葬儀を行う「法道寺会館」を建設し創業した株式会社綾川葬祭。その後社長である伊藤雄介さんの前職であった「セレモニーホール綾川」を譲り受け、エレベーターやバスルーム、事前相談コーナーなど誰もが快適に利用できるような大規模なリニューアルを行いました。

香川県内に3つの葬儀場を持ち地域に根差した葬儀や法要を行う株式会社綾川葬祭。小規模の家族葬から大規模な葬儀まで遺族の気持ちに寄り添った葬儀・法要で注目を集めています。また2017年夏には新たに4つ目の葬儀場となる「綾歌・飯山会館」もオープンし、着実にステップアップを目指している。

ハードとソフトの充実で
十人十色の葬儀に対応



その当時家族や親近者のみで行う家族葬の需要が増えてきていたことに着目し、23年には「セレモニーホール綾川」の新館として「法要会館」を設け、小規模葬儀に対応してきました。常務取締役兼国分寺会館責任者の伊藤雄介さんは「小さなお子様連れからご高齢の方まであらゆる年齢層のお客様が利用されることを配慮した設備を整えることが大切だと考えました。1級葬祭ディレクター(厚生労働省認定・葬祭ディレクター技能審査)や専属のフラワーデザイナーが遺族に寄り添い、それぞれのご希望を尊重した葬儀・法要体制を整えました。100人いらっしゃれば100通りの葬儀・法要の形があります」と当時を振り返ります。



セレモニーホール綾川



法道寺会館



絆ホール

45

雄介さんが入社して2年後、平成26年に三拠点目となる「国分寺会館」を設立。「これまでセレモニーホール綾川にも少し離れた国分寺エリアから足を運んでいただくことも多く、それならば、とオープンを決意しました。葬儀場というのは地域密着型で一般的にはオープンしても定着するには5年かかると言われています。しかしこれまでも地域密着型の方針を大切にしていたので人間関係や当社のサービスをご理解いただければきっと多くの方にご利用いただけると思っていました」と伊藤さん。「国分寺会館」は大規模の葬儀にも対応するメモリアルホールをはじめ小規模の家族葬に対応する木の香りが漂う暖かみのある木造平屋造りのファミリーホール、絆ホールを有しより細やかなニーズに対応できるよう配慮されています。また近年都心部で需要の高いお通夜や告別式も行わない「直葬」にもいち早く対応。多様化する葬儀スタイルに柔軟に対応しています。

い葬儀、心のこもった葬儀をテーマにした「綾歌・飯山会館」がオープンします。30年の経験から理想の葬儀を執り行える動線やレイアウトを考慮した葬儀専門式場です。住宅専門会社の施工により控室は自宅に在るような寛ぎの空間を実現し、ご遺族の皆様の快適さを重視しました。400名を超す大規模な葬儀から少人数の家族葬までストレスなく対応できる空間作りこだわりました。建物だけでなく付随するサービスも常に進化させています。例えば霊柩車もそのひとつ。一般的な霊柩車と言えは運転手と喪主様のみが乗車するタイプが一般的ですが、社長の「故人様とご遺族様が最期の最後まで一緒にいられる霊柩車を、疲労の極みであるご遺族様の心身を癒す霊柩車」という強い思いを反映し、誕生したのがリムジン型霊柩車です。ベース車両を2m延長することにより喪主様をはじめ、遺影額、遺骨箱を持つ方、更にもう1名まで乗車が可能に。トヨタアルファードをベースにした広い乗車口、独自の幅広シートなど寛ぎの居住空間が実現しました。お客様への徹底的な思いやりの心はこんなところにも息づいています。ドライバーは前職が警察官であった常務・雄介さんが自ら担当。安全・安心な運転を徹底して行うそうです。



▲先輩インタビュー▼
現在、株式会社綾川葬祭で働く上司・先輩たちに会社を選んだ理由、仕事のやりがい等について聞きました。



「元々花に興味はあったのですが入社した時はまったく未経験でした。経験を積んだ先輩の仕事を手伝いながら仕事を覚えていきました。日本フラワーデザイン協会で花の種類や特性などについて学び基本的なアレンジの仕方も身に付けました。祭壇の花は葬儀のイメージを大きく左右する大切なものだからこそ、仕入れてからも美しい状態を保つため、水揚げ作業や、温度管理などが大切だそう。「咲き過ぎず、つぼみが硬すぎず、式典の時に一番美しく見えるよう気を配っています」。年齢や性別、遺族の意向などを考慮して、祭壇のモデルをデザインし、「輪」輪心をこめて制作。「最近では使える花の種類も増えました。一般的な祭壇が出来上がるまでには約1200本の花を使い、3時間ほどで完成します。厳粛な気持ちを表し、ご遺族の皆様にもご満足いただけるよう努力しています。きれいなお花がありがとうとお言葉をいただくこともあり、やりがいを感じると同時に更に高いスキルを身に付けなければと気持ちを新たにします」。

葬儀の印象を左右する祭壇を心をこめてアレンジします

葬儀の際、スタンドの生花や祭壇の生花を手掛ける玉振さん。市場に直接出向き、生花の仕入れから行っているそうです。「元々花に興味はあったのですが入社した時はまったく未経験でした。経験を積んだ先輩の仕事を手伝いながら仕事を覚えていきました。日本フラワーデザイン協会で花の種類や特性などについて学び基本的なアレンジの仕方も身に付けました。祭壇の花は葬儀のイメージを大きく左右する大切なものだからこそ、仕入れてからも美しい状態を保つため、水揚げ作業や、温度管理などが大切だそう。「咲き過ぎず、つぼみが硬すぎず、式典の時に一番美しく見えるよう気を配っています」。年齢や性別、遺族の意向などを考慮して、祭壇のモデルをデザインし、「輪」輪心をこめて制作。「最近では使える花の種類も増えました。一般的な祭壇が出来上がるまでには約1200本の花を使い、3時間ほどで完成します。厳粛な気持ちを表し、ご遺族の皆様にもご満足いただけるよう努力しています。きれいなお花がありがとうとお言葉をいただくこともあり、やりがいを感じると同時に更に高いスキルを身に付けなければと気持ちを新たにします」。



葬儀施行部
副責任者
新居直道さん
(2014年入社・33歳)

お客様の負担が最小限になるよう配慮した式典に

通夜から本葬までの進行や会場設営と司会までマルチにこなす新居さん。「納棺からお通夜、本葬までの進行を担当しています。ご遺族の皆様は大変お忙しいので、出来る限りスムーズに進行できるように心がけています。司会進行では香川県独特の出焼香という列席者の皆様は順番にお焼香をする習慣があるのですが、その際に列席者のお名前や会社名、役職等を読み間違えることのないよう、何度も確認に確認を重ねています。また社会人としては当然のことですが、フォーマルな場なので特に身だしなみ、言葉遣いには気を使っています。設営面については参列者の人数が多い場合でもスムーズにご会葬いただけるよう、常に他のスタッフとも連携し、動線を工夫しています。暑い日、寒い日もありますがその際も参列される方の負担を軽減できるように会場設営を行っています」と新居さん。今後は会社の為に自分は何ができるかを常に意識し、スキルアップしていきたいといいます。利用したお客様から綾川葬祭さんにお願いで良かった、良いお葬式になりましたと言ってもらえることが何よりやりがいに繋がると。